

# N 中央労福協ニュース NEWS LETTER

労働者福祉中央協議会（中央労福協）

発行人 南部 美智代

No. 206

〒101-0052

東京都千代田区神田小川町 3-8 中北ビル 5F

Tel 03-3259-1287 URL <https://www.rofuku.net>

## 労働団体、事業団体相互に特徴的な活動事例を共有 2023 年度 労働組合・事業団体合同会議を開催



会場参加者の様子 = 9 月 22 日、東京都内

中央労福協は 9 月 22 日、「2023 年度 労働組合・事業団体合同会議」を会場と Web を併用した Hybrid 方式で開催し、合わせて 40 名が参加した。

本会議は、労働組合と福祉事業団体の相互連携と協力関係を強化することを目的に開催している。

座長の中央労福協・伊藤敏行副会長（フード連合会長）の進行で、11 月 22 日の第 66 回定期総会で提案する「2024～2025 年度活動方針（素案）」に加え、「新たな運動の展開と組織運営について（素案）」、「2024 年度以降のろうふくエール基金の取り扱いについて（素案）」、「2023 全国福祉強化キャンペーン」について意見交換した。

また、労働団体、事業団体からの特徴的な活動事例の共有として、労金協会より「労働金庫連合会女性プロジェクトによる OiTr 端末への広告掲載」、日本生協連より「持続可能な社会の実現を目指した全国の生協の社会的取り組み」、連合より「Wor-Q フリーランスサポートクラブ」、全労金より「全労金におけるジェンダー平等の取り組み」、

退職者連合より「高齢単身女性の貧困に係る取り組み」、日本ワークルール検定協会より「ワークルール検定を始めたいきさつ他」についてそれぞれ報告をいただいた。

「2023 全国福祉強化キャンペーン」では、加盟労働団体トップ訪問、加盟事業団体との対話活動の実施について確認いただいた。労働組合と事業団体が相互に連携するとともに、労働者自主福祉運動の取り組み強化に向け、中央労福協は引き続き「ともに運動する」関係をめざし取り組んでいく。

### No.206 Topics

- 2 面 共に支え合う連帯社会の構築をめざして  
第 4 回地方労福協会議の開催
- 2 面 「オンライン」から「オフライン」が大事  
第 12 回 LSC 実務者・相談員研修会開催
- 3 面 SSE 連続講座第 2 回レポート
- 3 面 2023 年全国高齢者集会が開催される
- 4 面 私たちの選択が未来を変える（第 36 回 Web 学習会）
- 4 面 医療福祉生協連より 第 13 回通常総会を開催

## 共に支え合う連帯社会の構築をめざして 第4回地方労福協会議を開催

中央労福協は9月28日、「第4回地方労福協会議」をWebにて開催し、地方労福協、中央労福協から56名が出席した。

座長の中央労福協・吉成副会長（東部労福協会長）の進行で、「2023 全国福祉強化キャンペーンについて」、「新たな運動の展開と組織運営について（素案）」、「2024 年度以降のろうふくエール基金の取り扱いについて（素案）」、「2024～2025 年度活動方針（素案）について」それぞれについて意見交換した。

併せて、「ライフサポート活動に関する事例共有について」として、北海道労福協および広島県労福協から報告を受けるとともに、「フードバンク活動に関する情報交換」として、神奈川県労福協および高知県労福協より報告を受けた。また、「労働金庫連合会女性プロジェクトによるOiTr 端末への広告掲載」として労金協会より報告を受けた。

その他事項では、連合総研の麻生裕子主任研究員より、連合総研・中央労福協・教育文化協会による共同研究・



冒頭挨拶をする吉成副会長

報告書「共に支え合う連帯社会の構築をめざして」について講演を受けた。講演では、連帯社会の構築に向けた労働者自主福祉活動に関する考察とともに、地方労福協の組織と活動—アンケート調査結果から、地方労福協・協同組合の他助活動と活動資源の実態—12の取り組み事例についてポイントの説明があり、今後の取り組みに向けたご示唆を頂いた。

## 「オンライン」から「オフライン」が大事 第12回LSC実務者・相談員研修会を開催、これからの相談支援を学ぶ

中央労福協は10月6日、Hybrid形式で「第12回LSC実務者・相談員研修会」を開催、全国から相談対応に取り組む相談員など約90名が参加した。

基調講演として、よりそいホットラインの取り組みを通じて年間20万件の相談を受けている一般社団法人社会的包摂サポートセンター事務局長の遠藤智子氏より「オンライン支援のこれから」と題してお話を頂いた。

遠藤氏は、スマホなどの端末やSNSが普及している現状に鑑み、「困っている人はネットの中にいる」と指摘、その垣根の低さや匿名性による安心感などから若年層をはじめニーズがあり、今後SNS相談の利用者は多数派になるだろうと説く。遠藤氏は「相談につながらない皆さんのためにぜひオンライン相談について考えて頂きたい」と強調した。遠藤氏からはメタバースを活用した「オンラインの居場所づくり」など新しい取り組みについても紹介があった。

続く事例報告では新潟、宮崎の事例についてそれぞれ参加している相談員から報告を頂き、また分散会ではオンラ



イン参加、会場参加それぞれ少人数のグループに分かれて好事例共有や意見交換・交流を行った。

今回の研修会には、ライフサポートセンターを運営する4団体である連合、労金協会、こくみん共済coopからも担当者の参加があり、研修会の最後にはそれぞれからこれからのライフサポート事業の充実・強化に向けて発言を頂いた。

## 「つながる経済」で社会を変える！ オンライン連続講座レポート ディーセントワークや SDGs を促進する社会的連帯経済

中央労福協の連続講座「『つながる経済』で社会を変える！」の第2回が 10 月 3 日に「ディーセントワーク、SDGs と社会的連帯経済」をテーマに開催された。

前半は ILO 駐日事務所駐日代表の高崎真一氏を講師に、ILO が昨年の総会で採択した社会的連帯経済（SSE）に関する決議の意義や、ディーセントワークを実現する上でなぜ SSE の促進が重要なのかを学んだ。高崎氏は、人間中心の経済モデルへの関心の高まりや危機への強靱性に対する注目など決議の背景や、雇用と所得の創出や職場における権利の促進などディーセントワークに SSE が貢献していることを解説した。さらに、日本の労使への期待として、民間企業には社会的利益を重視する SSE 化の動きが出てきていることを評価し中小企業への拡大を期待するとともに、労働組合には SSE の価値に焦点を当てた取り組みが遅れているとして奮起を促した。

後半はアフリカ日本協議会共同代表の稲場雅紀氏を講師に、折り返し点を迎えた SDGs の現状の評価や課題について学んだ。稲場氏は、今の世界は複合的危機が深まるばかりで、SDGs の目標を達成しなければ人類の生存が脅かされる状況だが、日本の SDGs にそのリアリティはあるのかと問題提起。こうした危機を



左から稲場氏、高崎氏と、ナビゲーターを務めた法政大学大学院教授・伊丹氏

乗り越えるには現代の経済システムに対するオルタナティブが必要であるとして、協同組合が SDGs を真ん中で担ってほしいとの期待を語るとともに、非営利組織が現状維持思考に陥らず変革志向をどう創っていくかという課題も指摘した。最後に「SDGs もあと 7 年。『つづく世界』への道をみんなでつくっていきましょう！」とのメッセージで締めくくった。

<連続講座の申込受付中> 第2回の見逃し配信も視聴できます。  
<第3回のご案内> 11 月 14 日（火）10:30～11:30（見逃し配信あり）  
フリーランスやギグワークへの法的規制の現状と課題  
講師 水町 勇一郎 氏（東京大学社会科学研究所教授）  
ナビゲーター 村上 陽子 氏（連合副事務局長）



詳細・申込は  
コチラから！

## 2023 年全国高齢者集会が開催される

9 月 19 日、東京都内で全国高齢者集会が開催され、全国から 1,300 人が参加した。退職者連合、連合、中央労福協、労金協会、こくみん共済 coop の 5 団体からなる実行委員会が主催した。

主催者を代表して挨拶した日本退職者連合・人見一夫会長は、「ロシアによるウクライナ軍事侵攻に関連して、政府に核兵器禁止条約の批准を強く求めるとともに、防衛費率増と増税・社会保障費削減は認められない。すべての人が生き生きと安心してくらせる社会をめざして取り組んでいく」と呼びかけた。

また、連合・清水秀行事務局長が挨拶をし、立憲民主党、国民民主党、社会民主党からそれぞれ来賓挨拶があった。

実行委員会構成組織として中央労福協・南部美智代事務局長、労金協会・芦川和人常務理事、こくみん共済 coop・濱田毅司常務理事の紹介の後、退職者連合・野田那智子事務局長の基調報告と内閣府「エイジレスライフ」



挨拶をする日本退職者連合・人見一夫会長

の表彰が行われた。

続いて「世界の構造変化と日本の未来」～ジェロントロジー（高齢化社会工学）とは何か～と題して、一般財団法人日本総合研究所会長、多摩大学学長・寺島実郎氏による講演、集会アピールの採択ののち、人見会長の「団結がんばろう」で幕を閉じた。

## 私たちの選択が未来を変える～エシカル消費とはなにか～ 第 36 回 Web 学習会を開催

中央労福協は第 36 回 Web 学習会を 10 月 20 日に開催し 104 名が参加した。講師に一般社団法人エシカル協会の末吉里花代表理事をお招きし、「私たちの選択が未来を変える～エシカル消費とはなにか～」と題して、ご講演いただいた。

エシカルとは、人・地球環境・社会・地域に配慮した考え方や行動のことであり、エシカルが必要とされる背景として、地球温暖化につながる深刻な気候変動や、児童労働や劣悪な環境による労働などの人権侵害などを挙げられた。

また、具体的な取り組み事例を通じて、「人は知れば、気にかける」という言葉を紹介し、私たちにできる具体的な行動として、商品を購入する際や組織活動の際に「フェアトレード」など地球環境に配慮した認証ラベルのマークがあるものを購入・利用すること、再生可能・自然エネルギーを利用すること等を発信された。

また、日本でのエシカル消費動向調査の結果として、全世代の 7 割近くの方たちがエシカル消費に興味がある



ことや、現在の中学校、高校の教科書には科目横断的にエシカル消費の掲載があり、未来の消費者にとってエシカル消費は当たり前であることが紹介された。

まとめに、「エシカル」を「(エ)いきょうを(シ)っかりと(カ)んがえ(ル)」として、個人でも組織でも自分たちの行動をしっかりと考えて営むことでエシカルの実践を呼びかけた。

## 医療福祉生協連より 第 13 回通常総会を開催

2023 年 6 月 8 日、ホテルイースト 21 東京（東京都江東区）にて医療福祉生協連第 13 回通常総会を 4 年ぶりに多数の代議員が会場に集まって開催し、2023 年度全国の医療福祉生協の中心テーマと重点課題を決定しました。

2023 年度中心テーマは

「誰もが健康で居心地よくらせるまちづくりへの挑戦」

サブテーマは

- ・一人ひとりの「健康観」を大切に、みんなの願いを実現する事業と運動を創造しよう～
- ・気候危機を防ぎ、持続可能な社会・平和な社会をめざして行動しよう

< 重点課題 >

### (1) 健康づくり・まちづくり

すべての人の健康と安心を支える健康づくり・まちづくりへアップデートします。

### (2) 事業・経営

「総合力と連携」の視点で組合員や地域から求められる事業の強化と見直しをすすめ、持続可能な事業をともにつくりします。



### (3) ともに学ぶ・人づくり

「医療福祉生協の 2030 年ビジョン」の実践を通して、一人ひとりの「健康観」を大切にする人づくりをすすめます。

### (4) 平和で公正な社会づくり

いのちを脅かす気候危機、くらしをとりまく様々な問題について幅広く学び、誰一人取り残されない社会をめざして行動します。